

さかあ町議会

Vol.107 2026.8.1

6月定例会号

発行 高知県佐川町議会

昔ながらの七夕まつり。

スコップ三味線も披露！



水道水濁り、なぜ起きた？ 2 ページ

6月定例会：議案・補正予算 3 ページ

5 地区から聞こえた「地域の声」 6 ページ

町政に問う！一般質問に7人が登壇 8 ページ

「地域の未来を拓く！」議員行政視察研修報告 15 ページ

地域でがんばる「佐川サッカースクール」さん 18 ページ

水道水濁り、なぜ起きた？ 町の説明と残る課題

① 岩井口上水道にて 濁水が発生

令和8年6月24日～25日朝、大雨の影響により

佐川地区・斗賀野地区・加茂地区・永野地区の一部で水道水に濁りが発生。

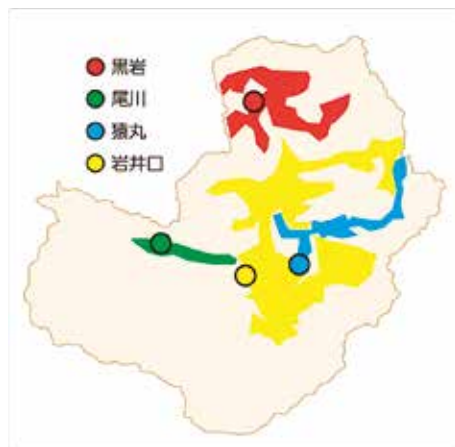
役場・文化センターなど複数箇所に給水所が開設され、6月27日午前11時30分、水質検査で安全基準を満たしたことが確認され給水制限が解除された。

② 町の対応 そして原因は？

25日朝、監視システムの数値は正常だったが、

住民から濁りの声が届き、水質検査で基準超過が判明。町は水道協会へ給水車派遣を要請した。

翌日以降、距離別3カ所での検査と排水作業を続け、27日朝の検査で全地点が基準をクリアした。原因は、施設の損傷ではなく、大雨で濁った河川水が地下水に一部混入したためとみられる。



岩井口の上水道に濁水が発生

③ 対応への評価・課題は？

【評価できる点】

・給水所を役場・文化センター等複数箇所に迅速に開設したこと

・高知市・南国市・須崎市など近隣自治体の応援を得て夜間・休日も対応したこと

・水質検査を経てから解除するという安全優先の手順を踏んだこと

【課題として残る点】

・情報発信のタイミングや伝達の改善手段

・給水所の場所・開設時間の変更が分かりにくかったという住民からの声

・明確な原因が分からなかったため、具体的な再発防止策がまだ示されていないこと

④ 今後の動向は？

町は「水質の安全管理の徹底」「予防策の検討・早急な実施」を表明し、具体的な内容は今後示される見込み。

その内容が住民の不安に添えるものとなっているか、引き続き注視していく。

表紙紹介

「昔ながらの七夕まつり」

昔ながらの七夕まつりは「五穀豊穡を願って野菜やわら馬を飾る昔ながらの七夕を子どもたちに伝えていきたい。」「地域みんなが集い楽しく過ごせる場を作りたい。」「と、できたばかりのとかの女子会のメンバーの熱い思いで始まりました。昨年は、雨で中止となりましたが、今年で13年目になります。

飾りにするわら馬を地域の古老から習い、子どもたちと制作。七夕の短冊は保育園・小学校の子どもたちや地域の高齢者施設に依頼し、早朝男性陣が切り出した青竹に飾り付けをします。笹飾りが風に揺れ、あおぞら公園は七夕まつり一色になります。



とかの女子会によるスコップ三味線



今年のメインステージは、アルトサックスのグループの演奏とステイル・アライブの歌声でした。ともに地域で頑張るグループです。

女子会はスコップ三味線でオーブニングを飾りました。

「子ども向けのゲーム」や出店もあり、地域の人たちが七夕の夜を楽しく交流しました。

クライマックスは、参加者全員の「斗賀野音頭」。

みんなが輪になり一つになるこの踊りは、斗賀野出身の歌手竹邑満子さん(故人)が作詞作曲し、藤本数代さんと小学生たちが振り付けを考えたもので、地域の宝物となっています。

一般会計 6月補正予算 1億2,740万円の増額補正を可決

令和8年度6月補正予算

会計名		補正額	補正後の額
一般会計		1億2,740万8千円	91億3,663万3千円
特別会計	国民健康保険	△983万9千円	15億5,701万8千円
	介護保険	2,105万6千円	18億7,570万3千円
	後期高齢者医療	△144万9千円	2億8,277万3千円

6月定例会は、6月5日から11日までの会期で開かれました。

報告5件、諮問2件、同意案9件、承認3件に加え令和8年度の補正予算をはじめ、条例改正など、議案11件を審議し、採決の結果、全件を可決しました。

条例の制定

さかわ発明ラボの設置及び管理に関する条例の制定について

佐川発明ラボに所属する地域おこし協力隊は、6月末をもって不在となる。

現在8月以降に着任予定の地域おこし協力隊1名で事業を進めていくため、休館日など事業内容を変更に関する条例改正。賛成全員で可決。

中野・瑞応辺地に係る総合整備計画の策定について

中野・瑞応地区の町道整備計画を策定。

過疎・高齢化が進む山間地域で、幅が狭く老朽化した道路の通行困難を解消するため、令和8～12年度の5年間で芝ノ元線・宇治谷1号線を整備。賛成全員で可決。

専決処分

報告 旧国道33号線道路災害復旧工事変更額

535万円の増額
計6千662万円

報告 損害賠償額の決定

さかわぐるぐるバス車両が運行中に、前方不注意により自転車と接触したものの。

2万4千960円

承認 令和8年度佐川町一般会計増額補正

さかわ発明ラボ内で昨年発生した事故に伴い、相手方より損害賠償請求があり、法的な対応のため弁護士に委任する費用。

127万6千円の増額
(次ページ質疑あり)

同意案

農業委員会委員9名の任命に同意。

「新委員一覧」※議案順

・北添正男(加茂)

・森田有紀(斗賀野)

・藤田省三(黒岩)

・田村公史(斗賀野)

・澤村重隆(尾川)

・田村和弘(斗賀野)

・氏原延(斗賀野)

・横畠悦子(黒岩)

・長山朋幸(佐川)

(任期は令和8年7月20日から2年間)

※農業委員会とは

農業委員会委員は農業者の代表として地域農業の発展を支える役割を担う。

①農地転用の審査

②遊休農地の調査・指導

③農業経営に関する相談

や情報提供

④農業者年金に関する業務

その他農業振興に関することなど。



清鏡堰の緊急対応費

2千71万円

柳瀬川清鏡ゴム堰の破損により、農業用水の取水が困難になり、水中ポンプでの取水を継続するための燃料費・借上料・工事費等

(次ページ質疑あり)

斗賀野分団屯所建替え費用

1億787万円

斗賀野分団2部屯所の解体・建替え工事費として、設計委託料343万2千円と工事請負費1億443万8千円(うち解体費1千400万円)を計上。

補正予算。ヒックアップ

■佐川町民プールの長寿命化計画費用

176万円

老朽化する町民プールについて、将来負担軽減を目指し、機能診断・長寿命化計画の検討業務費176万円を計上。

■学校給食無償化費用

△2千572万円

小学校の給食費については高知県の負担軽減事業費補助金を活用することとなったため、一般会計からの繰出金2千572万円を減額。
(佐川町の給食費無償化制度は継続)

議案質疑



動画で観る

専決処分承認 一般会計 補正予算第1号



問 西森議員 元発明ラボ職員が工作機械で手を

けがし、退職後に損害賠償請求を受けた件について、公務災害補償なら理解するが、なぜ町が損害賠償責任を問われるのか。職員の身分、勤務条件、事故概要、公務災害認定の有無、請求額858万8千739円内訳、保険補填の可否、弁護士委託料126万7千円の対応範囲を問う。

安岡まちづくり推進課長

当該職員はパートタイム会計年度任用職員で、地域おこし協力隊として発明ラボ運営を担当していた。勤務は週4日、9時半から18時15分。令和7年6月の業務中、加工機器で左手を負傷し、同年9月2日付で公務災害認定を受けた。請求額は治療費、休業損害、逸失利益、慰謝料等の合計で、費目により保険金で補填できるものとできないものがある。補正額は示談折衝など、訴訟に移行した場合の委託料である。

一般会計 補正予算第2号

問 西森議員 「こども誰でも通園制度」74万円について、どのような制度か。

岡崎健康福祉課長 令和8年4月から全国で始まった制度で、親の就労状況などにかかわらず、

月10時間を限度に保育所等へ預けられる。町内の子どもが他市町村の施設を利用した場合、町から委託料として運営費を支払うため、公定価格を見込み計上した。現時点で申請はないが、申請時に対応する予算である。

問 西森議員 農林水産業費の工事請負費514万8千円は、どの農道や水路の改良工事が。箇所づけは決定しているのか。

下八川産業振興課長 5月に柳瀬橋の少し上流の清鏡堰が破損し、使用できない状態となった。農業用水確保のため、水中ポンプ6台と発電機を設置した応急工事の費用である。

問 西森議員 教育費の消耗品154万5千円について、新年度早々に多額の消耗品が必要となった理由は。

濱田教育長 3件であ

る。佐川中学校と尾川中学校のデジタル教科書教師用ライセンス料が、それぞれ39万2千700円。国提供のライセンスに教師用が含まれていないことが判明した。佐川中学校分教室の指導書55万9千130円は、3人の教員で全教科を指導し、3教科以外は免許外指導となるため必要である。尾川中学校の化学物質対応用品20万円は、化学物質過敏症の生徒に対応する空気清浄用フィルター18万5千800円、専用洗剤、教員用衣類等である。保護者との協議に時間を要し、当初予算に間に合わなかった。

問 東議員 名称は佐川町消防団であるが、分団の名前が条例からなくなっている理由は。
横畠総務課長 消防組織法では、条例で定めるものの、規則で定めるものがある。分団の名称は規則で定めることになっているため、条例から除いている。



消防団の設置、名称及び区域に関する条例



斗賀野第二部消防屯所

議員各位の意思表明

賛否表（令和8年6月定例会）

○：賛成

●：反対

－：議長

欠：欠席

	東 祐 太 朗	田 村 雅 之	安 田 節 子	齋 藤 光	岡 林 哲 司	山 本 和 輝	田 村 幸 生	宮 崎 知 恵 子	西 森 勝 仁	下 川 芳 樹	松 浦 隆 起	中 村 卓 司	岡 村 統 正
佐川町農業委員会の委員の任命について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○
佐川町農業委員会の委員の任命について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○
佐川町農業委員会の委員の任命について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○
佐川町農業委員会の委員の任命について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○
佐川町農業委員会の委員の任命について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○
佐川町農業委員会の委員の任命について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○
佐川町農業委員会の委員の任命について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○
佐川町農業委員会の委員の任命について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○
佐川町農業委員会の委員の任命について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○
専決処分の承認を求めることについて（令和8年佐川町一般会計補正予算（第1号））	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○
専決処分の承認を求めることについて（佐川町税条例の一部を改正する条例の制定について）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○
専決処分の承認を求めることについて（佐川町国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について）	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	－	○	○
令和8年度佐川町一般会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○
令和8年度佐川町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○
令和8年度佐川町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○
令和8年度佐川町学校給食特別会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○
令和8年度佐川町介護保険特別会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○
令和8年度佐川町水道事業会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○
さかわ発明ラボの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○
佐川町監査委員条例の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○
佐川町消防団の設置、名称及び区域に関する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○
佐川町消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○
中野・瑞応辺地に係る総合整備計画の策定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○



地区ごとの特徴

加茂地区

- ・道路・安全対策
(国道の路面悪化、冠水対策)
- ・観光資源としての
バイカオウレンの活用
- ・住民のつながりを作る
活動を支援してほしい



尾川地区

- ・共同作業を担う人手不足
- ・老朽化した建物の倒壊、
防犯対策
- ・町営住宅の利用促進



黒岩地区

- ・伝統芸能、地域行事の存続
- ・廃校後の
黒岩中学校の利活用
- ・インターネット、携帯
電波状況の改善



斗賀野地区

- ・空き家の活用と管理問題
- ・耕作放棄地の維持管理
- ・独居高齢者の見守り



佐川地区

- ・観光、町づくり活性化
- ・法改正による相続問題
- ・子どもの教育環境の充実



議会での共有と今後の対応

1

全員協議会で
すべての意見を共有



2

特に多かった
声をもとに
町へ要望書を提出



3

町からの返答を
議員間で共有



4

各議員が
一般質問などに反映



いただいたご意見・ご提案は今後の一般質問や委員会活動などに
活かし、町政へ反映できるよう取り組んでまいります。



5地区で聞こえた『地域の声』

議会懇談会から見てきた、共通する課題と地域の可能性

佐川町議会は、5月7日から5月15日にかけて、町内5地区で議会懇談会を開催しました。

各地区では、暮らしや地域の将来に関する貴重なご意見を多数いただきました。

ここでは、その内容をテーマごと・地区ごとに整理し、皆さまと共有します。

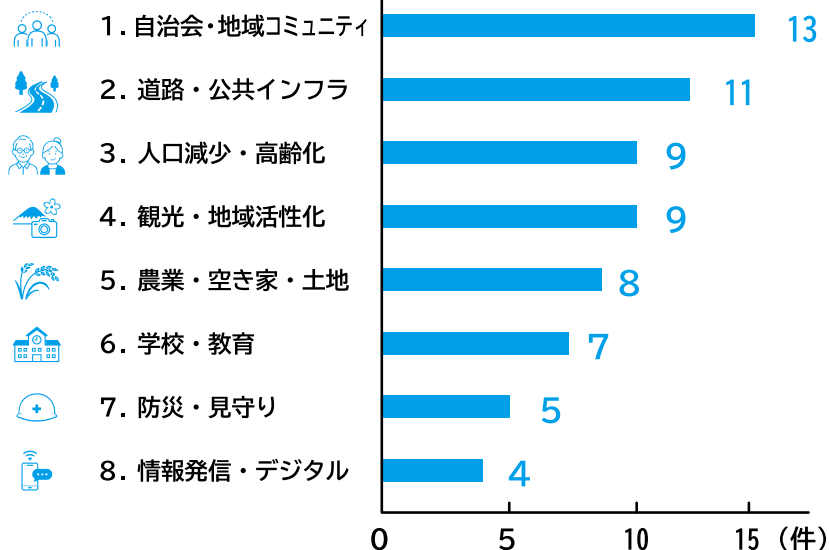


各地区で活発な意見交換が行われました。



5地区で話し合われた主なテーマ

(件数：のべ件数)



全地区に共通していたこと

- ✓ 自治会役員の担い手不足
- ✓ 高齢化による共同作業の限界
- ✓ 道路などインフラの維持
- ✓ 地域資源を活かした観光
- ✓ 若い世代が暮らせる仕事づくり



下川芳樹 議員



- 1、所有もしくは相続される不動産への管理責任と支援について
- 2、空き家バンクの運営状況と今後の展望について
- 3、本年10月からのカスハラ対応・対策の進捗状況について

問 空き家バンクの現状と将来への展望は

答 住民の協力得ながら進めて行く

問 議会懇談会で聞ける声は、地域に目立つ空き家の活用である。地域に与える人口減少の弊害を認識した空き家活用を、住民目線で進めているか。

安岡まちづくり推進課長
地域産業の担い手の減少や集落機能の維持など、人口減少が喫緊の課題であると認識し、移住・定住の取り組みを進めている。

移住希望者が求める空き家ができるだけ提供できるような掘り起こしを行い、空き家バンク制度の登録を進めている。地域との連携では、集落活動センターでの空き家バンク説明会を実施している。

所有者への働きかけは、固定資産税納付書送付の際に案内文書の同封、令和7年度は電力使用状況データを活用して、現況調査を行った。

現在は、移住相談員と担当職員の2名体制で進めているが、集落活動センターの移住促進に関する事業と連携して、情報収集の仕方を検討、住民の協力も得ながら、取り組みを進めて行けたらと考えている。

問 10月施行のカスハラ対策、進捗は？

答 6月中に施行に向けヒアリング実施

問 本年10月より、すべての企業や自治体において、カスタマーハラスメントから労働者を保護する関連法が施行される。10月の施行まで4カ月足らずとなった。職員にとって重要な内容であることから、取り組みを進めている部署ごとの進捗内容を聞く。

横畠総務課長

本年10月1日施行に向けて、条例・規則・対応マニュアルを策定する予定。6月中には職員に素案を提示し、対応マニュアル作成のためのヒアリングを実施。来月中旬にそれぞれの案を作成し、施行に向けて必要な事務手続きを進めて行く。

濱田教育長

教育委員会では法改正に沿う形で、令和7年度から取り組んでいる「保護者・地域との関わりマニユアル」の周知徹底に努めている。

また、若年教職員にカ

ウンセラーが対応する予算を令和8年度当初予算で増額するなど、教育相談員やスクールカウンセラーによる、相談支援体制も充実させている。

宮本病院事業副管理者兼事務局長

町の方向性と国の指針に沿って、病院のペイシエントハラスメント対策素案を策定中。

岡崎健康福祉課長

町内の福祉事業所関係では、5つの介護事業所において、対応マニュアルを整備済みか整備予定と伺っている。





安田節子 議員



- 1、幸せなまちづくりの取り組みについて
- 2、小中学校の副教材費の補助について
- 3、2026年度職員の数と配置について

問 平和なまちづくりについて 町長の見解は

答 核のない平和なまちをめざす

のように進めていくのかを聞く。

片岡町長

佐川町は、世界の恒久平和と核兵器の廃絶を願い1984年に非核宣言を行った。この宣言は、行政と町民が一体となって平和への誓いを新たにすための道しるべである。町長就任以来理念と重みを心に刻んでいる。国際情勢は緊迫しており、悲惨な戦争の記憶を風化させず、次の世代に語り継ぐことが地方自治にとって重要な役割であると考えている。未来を担う子どもたちに対する平和教育は、平和なまちづくりの根幹であり、相手を感じやる心や命の尊さを学ぶ平和教育に力を尽くしたい。

濱田教育長

平和教育は、学習指導要領において、戦争の悲惨さ、平和の尊さ、国際理解を深めるものとされている。佐川町では、こ

れに基づき平和教育を実施し、夏休みの登校日に平和学習を行ったり、修学旅行で広島を訪れ、被爆の実態を学んだりしてきた。

加えて、本年度より身近な戦争について学ぶため、ふるさと教育副教材サカワークに戦争体験をした町内在住の方の貴重な話を収録するなど平和学習の教材を追加した。今後、学校での教育とともに町民の皆さんへも広めていきたい。



役場入り口の標柱

問 小中学校の副教材費に補助を

答 別の方法で補助をしていく

はできないものか。近隣町村では、何らかの形で副教材費への支援が行われている。佐川町でも実施できないものか。

濱田教育長

佐川町では、保護者負担の軽減のため、小中学校の給食費の無償化、18歳までの医療費の無料化、中学生の進路保障のための公設塾の開設を実施している。経済的に支援が必要な家庭には就学援助も行っている。副教材については、人工知能型の教材「ミライシード」を町予算で購入して使用しており、これを活用して副教材費を減らすよう努めている。そのため、今のところ副教材費の公費負担の予定はない。

問 憲法第26条は「義務教育は無償とする」としている。本来教育にかかる費用は、無償であるべきと考えている。佐川町では、先進的に小中学校の給食費を無償とし、保護者の負担は大いに減ったと思う。しかし、学校で使うドリルや様々な教材、体操服や絵の具などまだまだ保護者の教育費への負担は大きい。諸物価高騰のおり、この副教材費に対して公的な補助



齋藤光 議員



1、黒岩中学校の今後について

2、佐川町民プールの現状と今後について

3、第6次総合計画内の企業誘致について

問 黒岩中学校の後は？

答 本年度中の閉校に取り組む

8年2月には準備会を開催した。
令和8年度中に実行委員会を立ち上げ、令和9年3月に閉校式典を行う方向で取り組んでいる。
黒岩中学校の利活用については、地域の皆さんが求める活用方法をしつかりと聞きながら、ともに検討していく。

問 黒岩中学校は学生数の減少により、平成30年より8年間、休校状態となっている。
黒岩中学校の今後の方向性について問う。

岡田教育次長

黒岩小学校の児童数も減少する中、再開は難しいと判断し、本年度中の閉校に向けた事務手続きを進めている。
昨年10月に黒岩いきいき応援隊・黒岩地区自治会長と協議を行い、令和



問 企業誘致・雇用の確保の要望どう受け止めるか

答 安定した雇用の場が必要

問 第6次総合計画の住民アンケートでは「企業誘致・雇用の確保」が35.1%と最多であり、住民の最大の要望として示されたことをどのように受けとめているか。
また現段階での企業誘致に関する県との情報共有の結果を問う。

片岡町長

安定した雇用の場がなければ若い世代が定住できず、人口減少や地域活力の低下を招く。住民の方も強い危機感を抱いており、最優先課題として要望されていると受けとめている。

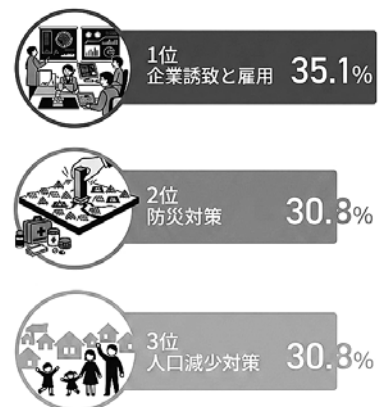
安岡まちづくり推進課長

県からの情報として、県内企業ニーズだが、令和6年8月のアンケート調査で工場の増設、移転等をする意向ありと回答した企業は67社。

増設・移転理由に関して約50%の企業が手狭感、老朽化と回答。

増設や移転に際して重視するものは、購入価格、津波浸水想定区域外であること、面積、地盤と続き、人材確保のしやすさや本社との近接性も重視されている。
必要面積としては、小規模区画に対するニーズが47社あり、県内の状況としては、企業側からの全体ニーズが54ヘクタールある中、県が確保しているのが3.7ヘクタールとなっており、50ヘクタール以上が不足している。

今後10年間の優先課題アンケート結果



佐川町 令和8年3月策定



東祐太朗 議員



- 1、ふるさと納税について
- 2、集落活動センターの持続可能な運営について
- 3、町民への情報発信のあり方について

問 集落活動センター 持続可能な支援体制を

答 実態把握を行い 見直しを検討する

まえても、現在の支援体制が持続可能なものになっているか。また、設置当初から現在まで指定管理料の見直しを行った実績はあるか。

安岡まちづくり推進課長
集落活動センターでは、各地区に合った方法で地域づくり活動が行われている。地域のにぎわいやコミュニティが維持され、地域の活力維持につながっていると認識している。

問 集落活動センターは町内4地区に設置されており、地元地域の皆さんが知恵を出し合い、地域活性化に向けて熱心に取り組まれている。
人口減少や高齢化が進む中で、こうした活動は地域を支える大切な力であり、大きく評価すべきものだと考える。

現在、全ての集落活動センターに同額の135万3千円の指定管理料が支払われているが、この金額の算出基準は、近年の光熱費高騰を踏

指定管理料は、施設を維持管理するための費用である光熱水費、電話代、消耗品費、修繕費、浄化槽管理等の委託料等を積み上げ、そこから施設の利用料と自主財源を差し引いた額としている。4つの集落活動センターの実績を確認して算定しており、全体の合計額では大きな差はなかったため、不足することがないよう金額を設定している。

指定管理料は見直しを行った実績があり、毎年

の総会資料等でも確認を行っている。近年の物価高騰の影響もあると考えられるため、令和9年度の予算に向けて施設の維持管理費について調査し、実態把握を行う。その上で必要に応じて、指定管理料や施設利用料の見直しについて検討する。今後集落支援員との連携を強化しながら、安定的な運営に向けて引き続き支援していく。



地域づくりを支える集落活動センター

問 さくらさいたねっと終了後 子育て情報の発信体制は

答 子育て情報アプリを導入予定

立した子育て情報専用サイトとして平成30年度に導入し、子育て世帯に向けた情報発信のツールとして活用してきたが、カスタマイズの制限や情報更新時の職員負担、費用面も鑑み、令和8年3月をもって閉鎖した。

今後は、若い世代はスマートフォンでの情報収集が主流となっているため、さくらさいたねっとに代わり、本年度より子育て情報アプリを活用する予定であり、現在導入に向けて準備を行っている。町公式LINEや町ホームページを中心とした情報発信も充実させ、町民にとってよりわかりやすく、手軽に情報を得られる環境づくりを行っていく。

問 これまで子育て支援情報については、「さくらさいたねっと」により発信されてきたが、令和8年3月31日に終了となっている、その理由は。また、さくらさいたねっと終了後、子育て情報に関するお知らせ、各種案内、イベント情報などを、どのように発信していくのかについて問う。

岡崎健康福祉課長

さくらさいたねっとは、町のホームページとは独



スマートフォンで、子育て情報をより身近に

中村卓司 議員



1、道の駅について
・道の駅は開業後6月で3年となるが、経営内容やその他状況について

2、黒岩河川改修について
・県への陳情や財源確保について

問 まきのさんの道の駅 経営状況は？

答 ほぼ順調に推移している

問 まきのさんの道の駅は、はちきんの会員の協力の下2千名あまりの署名を集め紆余曲折はあったが、令和5年6月に開業、今年の6月で丸3年となり4年目を迎えようとしている。

そこで現状の経営状況と今後の見通し、また道の駅の発展の為にアドバイザー、成沢氏を雇って活動しているがその具体的な活動を聞く。

下八川産業振興課長

細かい収支は9月定例議会で説明させてもらうが、7年度は財団としての売り上げ、テナント、出店者の売り上げすべて含め3億8千万円となる。テナントからの収入は1千200万となっており、レジ通過数は年平均で30万人で推移している。

アドバイザーの成沢氏からは、人間の行動原理や欲求、属性はどのように分類されるかなど、基本的な事項を学んでいる。現在、道の駅でアンケートを実施しており、来客者がどこからどのような目的で誰が来られたか、滞在時間や満足度などを調査しており、その結果を基に取り組む企画を検討していく。



3周年をむかえた道の駅

問 柳瀬川改修工事の県陳情は？

答 佐川町独自で工事の要望をする

問 この改修工事は昭和50年の5号台風で佐川町が激甚災害の指定を受け工事が始められたが諸事情により、柳瀬川下流域6kmが未整備となり取り残され現在にいたっている。最近になって下流より年間2億円前後の予算が付き工事が始まっているが総工事費130億とも言われる工事費では今後60年以上かかる事になる。短期で工事完成をする為に町から県へ予算を拡大してもらった陳情を前議会でお願いをしたが町長は県へどのような内容で陳情をするのかを聞く。

片岡町長

要望の内容は、まず被害状況の写真を見せ、仁淀川からの背水影響などにより柳瀬川が氾濫し、孤立する集落が出ることを農地が冠水することを説明する。改修により孤立する集落や冠水する農地がなくなる。下流域の平野地区では稲作だけでなく園芸作物も育てられる土地に転換することで、人口減少対策にも繋がるため、早期に完成させていただける様に要望する。



年間2億だと60年以上かかる工事



宮崎知恵子 議員



- 1、子ども・子育て支援金について
- 2、教育におけるデジタル化について
- 3、いじめ防止対策について
- 4、救急車の有料化について
- 5、地域創生について

問 子ども・子育て支援金の内容及び事業の見直しを問う

答 毎年予算編成方針に基づき見直しをしている

問 令和8年4月から全世代を対象に、3年間で段階的に公的医療保険へ上乗せされる国が進める子ども子育て支援金制度の住民負担額と支援金制度の内容、佐川町独特の子ども子育て事業の予算額、内容の見直し等は行なっているのか。教育無償化や給食費無料の保障が当たり前になり感謝の心がなくなるのは問題だ。また支援の拡大、イコール少子化対策とは限

らない。30年以上少子化対策をしても、出産数は減少する一方。結局財源は国民が払った税金や社会保障で国民の使えるお金は減る。行政も無駄をせず必要な仕事に絞り込んで頂きたい。実質的にこの支援は増税ではないかと思う。取って配るを拡大する制度であり、若い世代の手取りを減らす仕組みである。

廣田住民課長

保険料は試算であくまで平均額だが（佐川町の国保18歳以上）、8年度一人年額3千147円、後期高齢者医療1千884円。9年、10年度と上がる。

岡崎健康福祉課長

この制度の適用は国が進める①児童手当の拡充②妊婦のための給付③子ども誰でも通園制度④出産後の休業給付、休業支援給付⑤育児、時短就業給付⑥国民年金第一号被保険者の育児期間に係る保険料の免除措置、6つ

問 佐川町における地域創生について取り組みは

答 交流人口の増加に取り組む

の制度のみとなっている。町独自の子ども子育て事業の予算額は、健康福祉課所管分で、年間数千万円規模となっている。個々の事業については、毎年予算編成方針に基づき見直しをしているが、少子化対策として、今後とも町独自の子ども子育て支援策の拡充を図っていくことは重要であると考えている。

問 佐川町は宝の山（文化、自然、人材）の宝庫であるが十分に伝わっていない。佐川町で生まれ育った人、町に関係のあった人の力を借りることも大事であり、また歴史的風致認定都市として、伝統と風土に根差した活動も地域で生かされているが、住民を巻き込む参加まで至っていないと思われる。要約すれば個々、人、地域住民、行政、議員等の連携が今ひとつ弱いのではないか。企業との連携も極めて大事です。先日佐川高校のオープンセミナーで、価値観の常識を覆す平川理恵氏の講演で「人をつなげて、子どもが喜び、親が喜び、教員が喜んで、ひとりでに広がる関係をつくる」とが大切と言われた。まさしくその通りと思う。町長の強みを生かし、人材を集め、今までにない地域創生に取り組んで頂きたいと思うが。

片岡町長

佐川町には素晴らしい人材がたくさんおられるので今以上に新しい人材の方にもおいで頂いて佐川町を盛り上げ県下一位を目指し頑張っていきたい。

安岡まちづくり推進課長

情報発信として、佐川町の町並み、各地域の魅力の他イベント情報などSNSやHPも用いて情報発信をしている。今年度はハッシュタグキャンペーンを実施する。また、酒造り文化の展示機能、宿泊機能、飲食機能を持たせた施設整備を行うとともに司牡丹酒造の直営の「ほてい」や、旧浜口家住宅等と一体的に活用することで、交流人口の増加に取り組んでいく。

岡林哲司 議員



- 1、自治会の持続可能性と町の関わり方について
- 2、外国人人材の受け入れ方針と地域摩擦予防について
- 3、佐川高等学校の存続・魅力化と地域への影響について
- 4、道路の安全確保と維持管理の基準について

問 不公平感を緩和する制度研究を

答 自治会長会と加入促進に取り組む

のような形で、相応の負担をお願いする仕組みを研究すべきではないか。

安岡まちづくり推進課長

自治会は地域社会の維持に欠かせないパートナーである。自治会で担っていただいていいることを町ですべて実施することになれば、人的な負担も財政的にも負担が増大し、できないことも出てくる。

各自治会でも未加入者対策について協議され、取り組みをされている。

町としては現状もお聞きした上で、ごみステーションの管理に関わることだけでなく、引き続き自治会長会とも連携し、加入促進の取り組みを行っていく。



ゴミ集積所を清掃しないと…

問 高校存続、重点施策ではないか

答 最優先の取り組みの一つ

若者の地域定着、地元就職、地域産業との連携、関係人口の増、将来のＵターンなどにもつながる。高校の存続は人口減少対策そのものであり、町全体の重点施策として取り組むべきではないか。

岡田教育次長

佐川高校専属の魅力化コーディネーターとして教諭の方が配属されている。仁淀川流域の地域の方や、関係する自治体との連携した取り組みがより一層進んでいくことが期待される。

地域資源を活用した探

究学習などを整理し、令和9年度に予定しているアクションプランの実施に向けた協議を進めていく。

片岡町長

佐川高校がなくなることにについては全く考えていない。存続については人口減少対策そのものであり、喫緊の課題だと危機感を持って対応している。人口減少対策の最優先の取り組みの一つとして、関係自治体と足並みをそろえ、先頭を切って佐川高校の存続に向けて取り組んでいきたい。

問 佐川高校の魅力化、コンソーシアムの進展は、

地域資源を活用した探究学習など、魅力化の取り組みを進める一方、町内唯一の高校がなくなれば、若年の流出を逆に強めてしまふ恐れがある。

高校がなくなつた場合、人口、子育て、働き手、地域経済、地域活力にまで影響が及ぶ可能性が高い。一方で魅力化が進めば、入学者の増加だけでなく、地域外からの人の流れや、



高校生たちは地域課題にも取り組んでいる

高吾北広域町村 事務組合議会

6月15日、高吾北広域町村事務組合議会第2回定例会が開催されました。

提出されました議案は、報告1件「高吾北広域町村事務組合立特別養護老人ホームもみじ荘の廃止に伴う関係条例の整理に関する条例」であり、廃止に伴う関係条例の整理に関する条例を制定。条例の変更により職員定数196人から177人となりました。

令和8年度一般会計補正予算案などを含む補正予算案3件、売買契約の締結1件でありました。売買契約については、購入後7年が経過し、走行距離が25万キロを超えた高規格救急自動車・高度救命処理用資機材を更新するものであり、いずれの議案も原案のとおり可決されました。



日高村佐川町 学校組合議会

6月19日、令和8年第2回日高村佐川町学校組合議会が開催されました。

提出されました議案は、報告1件「令和7年度日高村佐川町学校組合一般会計予算繰越明許費繰越計算書について」、議案2件「加茂小中学校トイレ改修工事の請負契約について」「令和8年度日高村佐川町学校組合一般会計補正予算」であり、いずれの議案も満場一致で可決されました。

全国町村議会議長会

正副議長研修会報告

人口減少時代の地域づくりを学ぶ

5月26日、東京国際フォーラムで開催された全国町村議会議長会主催の正副議長研修会に参加しました。全国の町村議会から約2千人が集まり、人口減少社会における地方創生、外国人材、男女共同参画、議会のなり手不足について学びました。



地方創生の講演では、国の制度や交付金だけに頼るのではなく、住民

若者、地域資源、外部人材など、地域にあるさまざまな力を組み合わせることが重要であると示されました。



地域力の集結を！

また、地方創生に特効薬はなく、各地の成功事例から学び、それぞれの地域に合った方法で実行していくこと、そして人材育成こそが未来への投資であるという言葉が印象に残りました。

外国人材については、技能実習制度から育成就労制度への移行を踏まえ、日本語教育、生活支援、地域交流、キャリア形成を一体的に進める必要性が強調されました。外国人を単なる労働力としてではなく、地域で

共に暮らす住民として受け入れ、職場と住まいを往復するだけの「顔の見えない存在」にしないことが、地域への定着につながる」との説明がありました。

男女共同参画では、家事や育児などの負担が女性に偏る現状や、町村議会における女性議員の少なさ、無投票選挙の増加が地域自治の弱体化につながる」との指摘がありました。



受入れ時に馴染めるように

女性模擬議会をきっかけに女性議員が誕生した宮城県蔵王町の事例も紹介され、当事者によるパネルディスカッションで

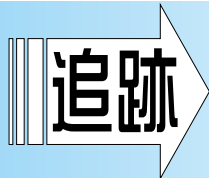
は、立候補に至るまでの経緯や議員活動への思いなど、実体験を踏まえた前向きな報告がなされました。



子育て世代の参政が変革のカギ！

佐川町においても、佐川高校の魅力化、若者や女性の参画、外国人住民への支援、地域産業の担い手確保、住民が議会を身近に感じる取り組みを、それぞれ別の課題としてではなく、町の将来戦略として一体的に進める必要があると感じました。

今回の研修で得た学びを、今後の議会活動や政策提言に活かしていきます。



あれはどうなったが？

あの質問のゆくえ



CIO 補佐官 岩寄氏

問 自治体DX

推進体制強化を

役場内の業務効率化と住民サービス向上に向けて、自治体 DX 推進体制を強化すべきだと思えるが、どうか？

(岡林議員・齋藤議員・東議員)

答 令和4年度時点では、担当職員1名体制だが、来年度増員配置 検討予定

どうなった

令和5年度に職員2名体制に増員。

令和8年度には、外部人材としてCIO 補佐官岩寄氏を迎え入れ、3名体制となり、体制強化が図られ、DX を推進する具体的な工夫と実践が図られている。

※自治体 DX とは？

デジタル技術を活用して、役場の仕事が効率化され、手続き等が便利になり、暮らしがより良くなる取り組みです。

あなたが選んだ議員の仕事ぶりを見にきませんか？

次の定例会は 9月4日(金)午前9時開会予定です。傍聴においでください。また町内4カ所の集落活動センター・夢まちランドで、視聴できます。

議会広報編集委員会

※わかりやすい紙面にと心がけています。読後のご感想、ご意見をお寄せください。

委員長	齋藤 光
副委員長	東 祐太朗
委員	岡林 哲司
委員	安田 節子
委員	田村 雅之

ぜひ率直なご意見や「こんなことを知りたい」という声をお寄せください。

安田 節子

今回は、議会懇談会により町民の皆さんの貴重な声を聞く機会や議員行政研修で他市町村の取り組みを学ぶ機会があり、学んだことを今後の活動や紙面づくりに生かしていきたいと思っています。

町民と議会をつなぐ広報誌として、議会や町政に関心を持っていただけるよう毎回苦心をしています。

新しい編集委員でお届けする議会広報も、今号で4号目となりました。

編集後記



半世紀近く活動されている「佐川サッカースクール」にお邪魔し、代表の味元貴志さんにお話を伺いました。



味元貴志代表

「佐川サッカースクール」は、いつ頃から活動されていますか？

昭和55年7月5日に設立され（初代和田英昭監督）、子どもたちにサッカーの楽しさと仲間と汗を流す大切さを伝えてきました。地域の子どもたちの成長を支える場として活動を続けており、現在は代表を中心に、12名

少年サッカークラブ 佐川サッカースクール



4～6年生のコーチと代表

のコーチが各学年を担当する体制で運営しています。固定の「監督」を置くのではなく、6年生担当のコーチが監督役を担っています。

いつ練習していますが、またチームメンバーは何人いますか？

練習は、1～3年生が月曜・水曜、4～6年生が火曜・木曜の午後7時から、佐川ナウマングラウンドで実施しています。コーチ、保護者の仕事や送迎の都合にも配慮しながら、地域の協力に支えられて続けられています。ボールを蹴ることが初めての子でも参加し

やすいよう、基本から丁寧に教えています。生徒の構成は1年生9名、2年生13名、3年生7名、4年生14名、5年生7名、6年生8名の計58名です。

指導方針はありますか？

ボールテクニックなど基本を大切にする。勝利だけを指すのではなく、真面目にコツコツ取り組む姿勢を重視しています。



代表を務める想いは？



和田初代監督への恩返し。の気持ちもあるが、「子どもがぐっと伸びた時」の喜びが原動力となっています。現6年生も、4年生の頃はなかなか試合で勝てなかったが、努力を重ね、県大会でベスト4に入るまでに成長しました。こうした姿が、指導者にとって何よりの喜びです。

大会参加の実績は？

大会は県大会を中心に年4回ほど参加し、冬の12月の大会を大きな目標にしている。過去にはJリーグを4人輩出した実績もあり、卒業後もサッカーを続ける子どもたちがいる。先輩たちの姿は、今の子どもたちにとっても大きな励みになっている。

「メンバー募集中！」

スクールでは現在、メンバーを募集しています。対象は小学生で、途中学年からの参加や未経験の子どもも大歓迎です。保育園の年長児を対象とした体験会も週1回行っています。活動には保護者の送迎などの協力が必要です。子どもたちが地域で支える雰囲気大切に感じています。

090-1578-9095
【味元代表】



@SAKAWA.SS_KOCHI
公式 Instagram

あなたの周りで、佐川町の元気のためにがんばっている「組織やグループ」をぜひ紹介下さい。



「サッカーを通じて、仲間と頑張る楽しさを感じ、共に成長しませんか？」